



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

ノーベル賞週間

今年のノーベル各賞を発表する「ノーベル賞週間」が、7日（月）の生理学・医学賞を皮切りに始まっています。科学者の功績に、世界の注目が集まる1週間です。

ノーベル賞とは、ダイナマイトを発明したスウェーデンの科学者、アルフレッド・ノーベルの「人類のために最大の貢献をした人に与える」という遺言に基づいて、1901年に始まった世界的に有名な賞です。これまでに受賞した日本人は28人（米国籍取得者含）おり、世界で7番目に多い国となっています。残念ながら今年は、日本人から受賞者は出ていませんが、将来的には皆さんの中から未来のノーベル賞受賞者が現れてくれることを期待しています。

ところで今年の受賞の傾向は、AIに関係する研究内容が多かったことです。ノーベル物理学賞では、現在のAI＝人工知能の技術の中核を担う、「機械学習」の基礎となる手法を開発した、アメリカの大学の研究者など2人（アメリカのプリンストン大学のジョン・ホップフィールド教授、カナダのトロント大学のジェフリー・ヒントン教授）が選ばれています。また、ノーベル化学賞では、タンパク質の立体構造を高精度に予測するAI＝人工知能を開発したイギリスの企業の2人（アメリカのIT企業グーグルのグループ会社デミス・ハサビスCEO、ジョン・ジャンパー氏）が選ばれています。

AIをツールとして使用する際の懸念点（人工知能学会 栗原会長 NHK ニュース）

- ・ AIに何を任せるとかは人間が決めなければ、人間である価値がなくなる。
- ・ 人間には、今まで以上に何をしたいか、目的意識を持つことが要求される。
- ・ AIは強力な道具であるため悪影響も大きい。
- ・ 使う側のモラルやどう使うのかということが試される。

皆さんもよく知っていて利用できる生成AIは、人工知能が新しいデータやコンテンツを作り出す技術です。人工知能は学習や創造活動を助けてくれる便利なツールですが、使い方を誤ると自分で考える力が弱くなったり、誤った情報を信じてしまったりするリスクがあります。上手に使うことが大切です。

紫金山・アトラス彗星(ほうき星)を探そう

「紫金山・アトラス彗星」が13日に地球に最も接近し、その後、見ごろを迎えます。空の暗い場所であれば、肉眼でかすかに見えるようです。SNS上では、世界中、日本中で観測された彗星のきれいな写真が投稿されています。

国立天文台によると、10月中旬の夕方西の低い空で観察できるようになり、16日以降が最も観測しやすいとのこと。双眼鏡や望遠鏡を使うとさらに観察しやすくなるので、天体に興味がある人は、ぜひ探してみましょう。



彗星(ほうき星)

